

「サンダイバーの幻影 紹介文」

岡和田晃

記念すべき「SF Prologue Wave」での『エクリプス・フェイズ』シェアードワールド企画の第一弾を飾るのは、『エクリプス・フェイズ』日本語版の翻訳監修者である朱鷺田祐介の手になる短篇「サンダイバーの幻影」だ。

キレのよい作品で、『エクリプス・フェイズ』世界のイメージを鮮明に叩きつけてくれる。世界観についての説明的注釈を生かしたメタフィクショナルな構成も見どころだ。すでに朱鷺田祐介は『エクリプス・フェイズ』のRPGリプレイ「金星の人狼 —Garou in the Venus—」や「Role & Roll」Vo.88～Vol.91（アークライト／新紀元社）にて発表している。これは実際のゲーム・プレイを録音し読み物として再編集したものだが、途中で登場するト書きの部分には、こうしたRPGリプレイの手法が導入されている。ゲームデザイナーならではの工夫だろう。

朱鷺田祐介は日本を代表するゲームデザイナー／ライターの一人。1987年に「ウォーロック」誌（社会思想社）でデビューしてから、アナログゲーム界の最前線で活躍して

きた。ロールプレイングゲームのデザインや紹介が仕事の中心だが、代表作であるダークファンタジーRPG『深淵』の世界を舞台に『火龍面舞』や『丘の上の貴婦人』（ともにプランニングハウス）といった小説を出版しており、小説家としての顔も持つ。『エクソ・フェイズ』の世界の魅力を多角的に紹介してくれる、期待の書き手だ。